

第3回 川口市庁舎建設審議会 次第

平成25年1月29日（火）

午後3時より

本庁舎 5階 大会議室

1 議事

（1）第2回審議会を受けての諸対応について

（2）評価の視点（案）及び各評価の視点に対応する指標ないし
客観的資料について

（3）その他

・第4回の日程

平成25年2月下旬を予定

第 3 回 川口市庁舎建設審議会資料

評価の視点（案）及び各評価の視点に対応する
指標ないし客観的資料について

1. 評価の視点（案）

第2回審議会での指摘事項を受けて、評価の視点の区分や項目を見直した。併せて、各視点を評価する指標ないし客観的資料の案について整理した。

評価の視点	評価の視点（詳細）	指標ないし客観的資料
1) 住民の利便性	(1) 駅からの交通利便性	最寄り駅からの距離、所要時間、最寄り駅の規模
	(2) バスによる交通アクセス	バスの運行本数、頻度
	(3) 主要道路からのアクセス	周辺主要道路の整備状況・整備計画
	(4) 交通渋滞の可能性	接続道路の交通渋滞発生件数
	(5) 他の窓口機能との重複度合い	半径 1.5km 圏内の支所等窓口機能の数、法務局、税務署等の住民が利用する施設との近接性
	(6) 人口集積性	半径 1.5km 圏内の人口
	(7) 位置の偏在性	地理的な中心度合い、市の人口重心地からの距離
2) 防災拠点性	(1) 地盤の強さ	災害時の地盤の強さ
	(2) 浸水リスク	災害時の浸水可能性
	(3) 職員参集の円滑さ	災害時に職員が参集しやすいかどうか
	(4) 避難所との接続性	半径 1.5km 以内の避難所の数
3) 周辺環境への影響	(1) 周辺住環境への影響	騒音面や日照面での影響
	(2) 周辺商業・サービス業等への影響	半径 1.5km 圏内の商業施設数、川口駅から現在の庁舎付近における商店等への影響、関連するサービス業等への影響
4) まちづくり等の発展可能性	(1) まちづくりに関する主な計画	川口市総合開発基本計画、川口駅周辺市街地整備構想
	(2) まちづくりに関する主なプロジェクト	川口駅周辺市街地再開発事業、工業団地造成事業、鉄道整備、道路整備 等
5) 庁舎建設計画との整合性	(1) 敷地面積、今後の開発余地	敷地面積
	(2) 施設の配置	用地の地形による施設の配置位置や分散度合い
	(3) 周辺インフラ整備状況	上下水道等のインフラ整備状況
	(4) 周辺住民との合意形成	周辺住民との合意形成の必要性、留意事項等
	(5) 工事の施工にあたっての留意事項	庁舎建設工事にあたっての留意事項等
	(6) 完成までの事業期間	完成までの事業期間
6) コスト	(1) 概算事業費	概算事業費
	(2) 解体撤去工事コスト	解体撤去工事コスト

2. 各評価の視点に対応する指標ないし客観的資料

1) 住民の利便性

(1) 駅からの交通利便性

評価概要は以下の通りである。

拠点	本庁舎		SKIP シティ
最寄り駅	JR 川口駅	SR 川口元郷駅	SR 鳩ヶ谷駅
一日あたりの乗降人員数※	156,350	16,176	17,184
最寄り駅からの徒歩による距離	約 1.2km	約 1.2km	約 1.5km
最寄り駅からの所要時間※2	約 12 分	約 12 分	約 15 分

出所：東日本旅客鉄道株式会社 HP、埼玉高速鉄道 HP

※1 乗降客数は、JR 東日本の手法に則り、JR 東日本、埼玉高速鉄道の HP で公表されている乗車人員を 2 倍した数としている。

※2 最寄り駅からの所要時間は徒歩の平均速度を 6km/時としたときの時間である。

図 JR 川口駅及び SR 川口元郷駅から本庁舎までの徒歩ルート



図 SR 鳩ヶ谷駅から SKIP シティまでの徒歩ルート



※SR 鳩ヶ谷駅は SKIP シティまでの最短の出口を起点とした。

(2) バスによる交通アクセス

①JR 川口駅からのアクセス

評価概要は以下の通りである。

	本庁舎敷地			SKIP シティ C 街区※2
最寄りの停留所 ※1	市役所前	市役所西口※3	市役所東口※4	上青木小学校
停留所から 各拠点までの距離	約 50m : 徒歩約 1 分	約 350m : 徒歩約 4 分	約 150m : 徒歩約 2 分	約 300m : 徒歩約 4 分
平日の総運行本数 (上下線)	155 本	419 本	126 本	368 本
路線 (系統) 数	5 系統	9 系統	4 系統	7 系統
運行頻度 (1 時間あたり) ※5	約 9 本	約 24 本	約 7 本	約 21 本

出所：川口市 HP、国際興業バス HP「こくさいばす どっとこむ」

<http://5931bus.com/>

※1 本庁舎敷地については、市民の利用頻度が高いとされる停留所 3 箇所を選択した。

※2 SKIP シティ C 街区については、徒歩 5 分以内でアクセスできる停留所のうち、一日当たりバス運行本数が最も多い停留所を選択した。

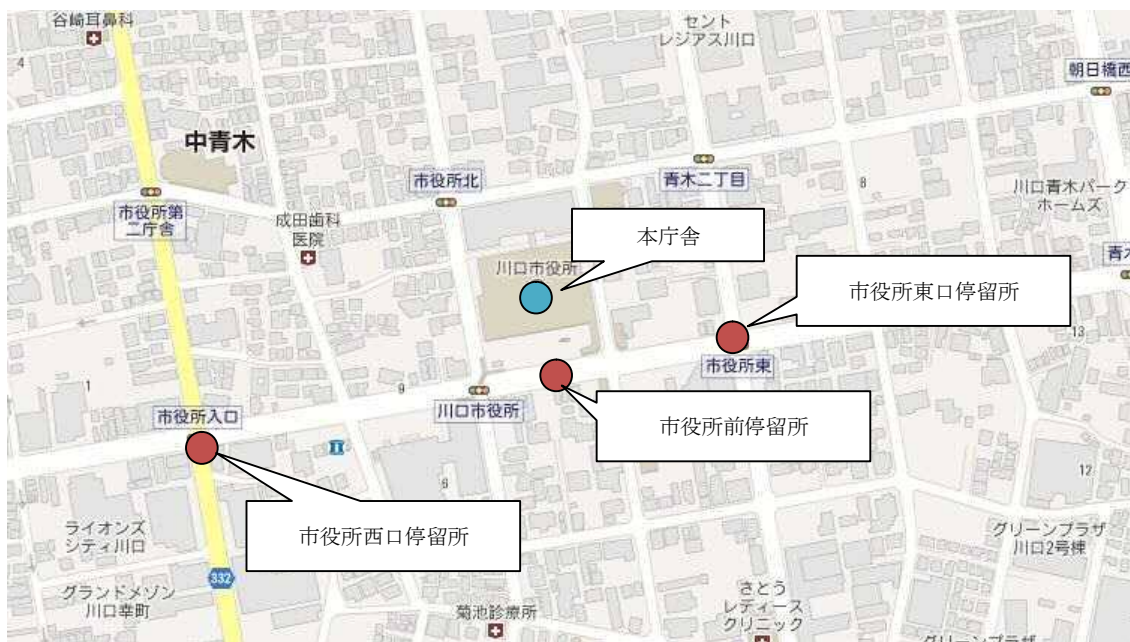
※3 「市役所西口」を通過するバスには、「市役所前」を「市役所東口」を経由する系統が含まれているため、一部重複している。

※4 「市役所東口」を通過するバスには、「市役所前」、「市役所西口」を経由する系統が含まれているため、一部重複している。

※5 運行頻度は、[平日の総運行本数 (上下線)] ÷ [当該停留所におけるバス総運行(営業時間)]で簡易推計した。

(参考)「本庁舎」及び「SKIP シティ」最寄り停留所の位置関係

<本庁舎>



<SKIP シティ>



②各拠点からのアクセス

JR 川口駅、埼玉高速鉄道川口元郷駅以外の川口市内の鉄道（JR・埼玉高速鉄道）駅や、各支所からのバスによるアクセス性を以下のように整理した。

国際興業バス HP「こくさいバス どっとこむ」の路線検索システムを用いて各停留所からの所要時間及びバス乗換回数を整理した。また、検索条件日時は「平日の朝」を想定し、「2013 年 1 月 21 日(月)の午前 9 時」に統一した。

※「所要時間」には、乗換に伴う待ち時間も含まれる。

図表 各支所からのバスによるアクセス性

着 発		本庁舎						SKIP シティ	
		(市役所西口)		(市役所前)		(市役所東口)		(上青木小学校)	
拠点名	最寄り停留所	所要時間	乗換回数	所要時間	乗換回数	所要時間	乗換回数	所要時間	乗換回数
新郷支所	新郷支所	25 分	1 回	24 分	1 回	23 分	1 回	29 分	1 回
神根支所	神根支所	18 分	0 回	25 分	1 回	23 分	1 回	9 分	0 回
芝支所	芝支所入口	51 分	2 回	59 分	3 回	53 分	1 回	49 分	2 回
安行支所	安行支所	41 分	2 回	48 分	3 回	31 分	1 回	35 分	1 回
戸塚支所	戸塚支所	49 分	1 回	57 分	2 回	45 分	1 回	37 分	1 回
鳩ヶ谷支所	鳩ヶ谷庁舎	22 分	1 回	21 分	1 回	17 分	1 回	21 分	1 回

図表 JR の駅からのバスによるアクセス性

着 発		本庁舎						SKIP シティ	
		(市役所西口)		(市役所前)		(市役所東口)		(上青木小学校)	
拠点名	最寄り停留所	所要時間	乗換回数	所要時間	乗換回数	所要時間	乗換回数	所要時間	乗換回数
西川口駅	西川口駅東口	17 分	1 回	23 分	2 回	14 分	1 回	6 分	0 回
蕨駅	蕨駅東口	23 分	1 回	31 分	2 回	22 分	1 回	14 分	1 回

※蕨駅は厳密には川口市内ではないが、本検討においては対象とした。

図表 埼玉高速鉄道の駅からのバスによるアクセス性

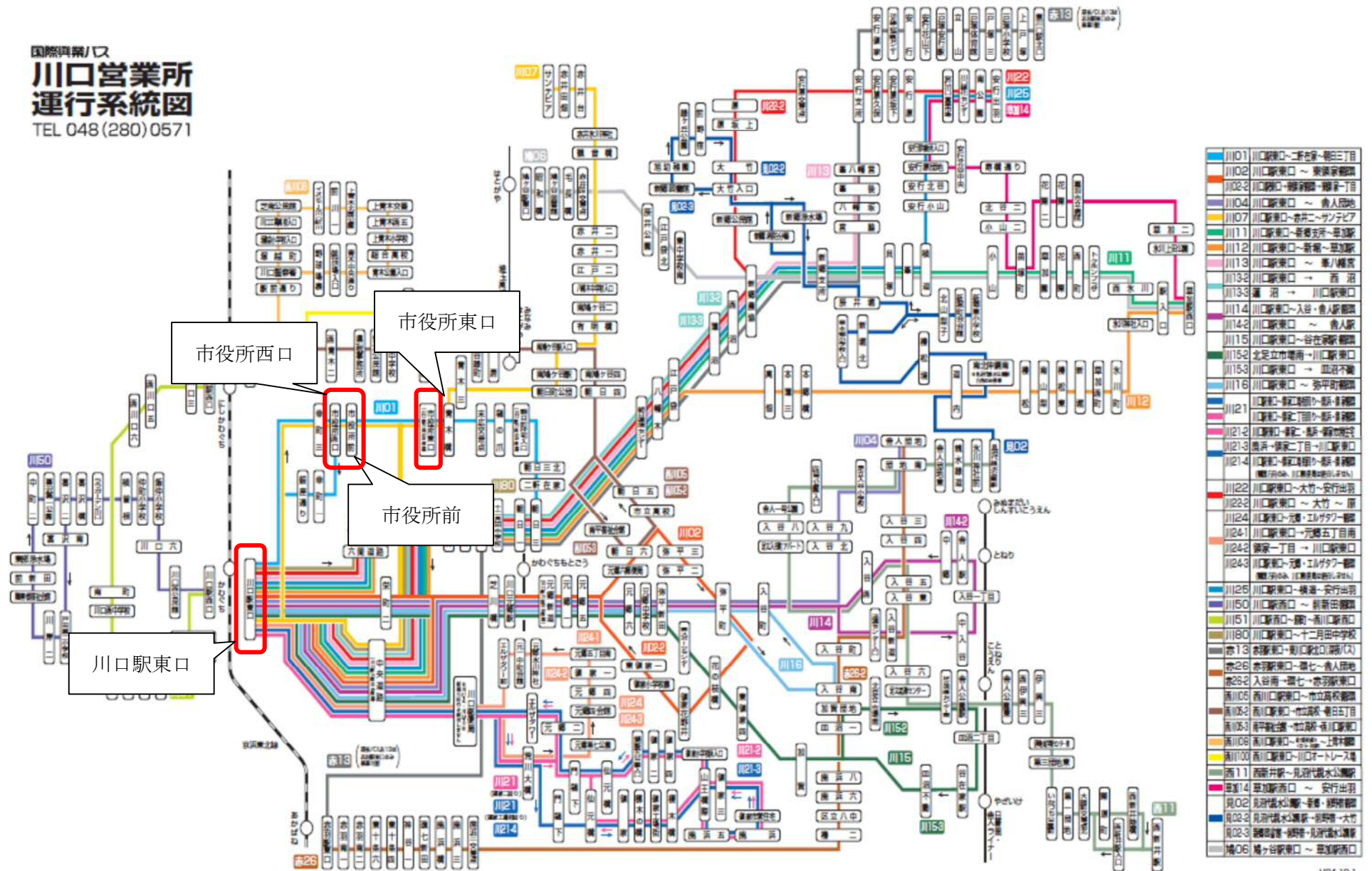
着 発		本庁舎						SKIP シティ	
		(市役所西口)		(市役所前)		(市役所東口)		(上青木小学校)	
拠点名	最寄り 停留所	所要 時間	乗換 回数	所要 時間	乗換 回数	所要 時間	乗換 回数	所要 時間	乗換 回数
南鳩ヶ 谷駅	南鳩ヶ 谷駅	14 分	1 回	13 分	1 回	7 分	0 回	28 分	1 回
鳩ヶ谷 駅	鳩ヶ谷 駅西口	17 分	0 回	23 分	1 回	31 分	1 回	8 分	0 回
新井宿 駅	新井宿 駅	27 分	0 回	33 分	1 回	30 分	1 回	17 分	1 回
戸塚安 行駅	戸塚安 行駅	31 分	0 回	38 分	1 回	37 分	1 回	22 分	0 回
東川口 駅	東川口 駅南口	36 分	0 回	44 分	1 回	46 分	1 回	27 分	0 回

出所：国際興業バス HP「こくさいバス どっとこむ」

<http://5931bus.com/>

(参考)川口市を走行するバスの路線図 (川口営業所)

国際興業バス
川口営業所
運行系統図
TEL 048 (280) 0571



(参考)川口市を走行するバスの路線図 (鳩ヶ谷営業所)

国際興バス

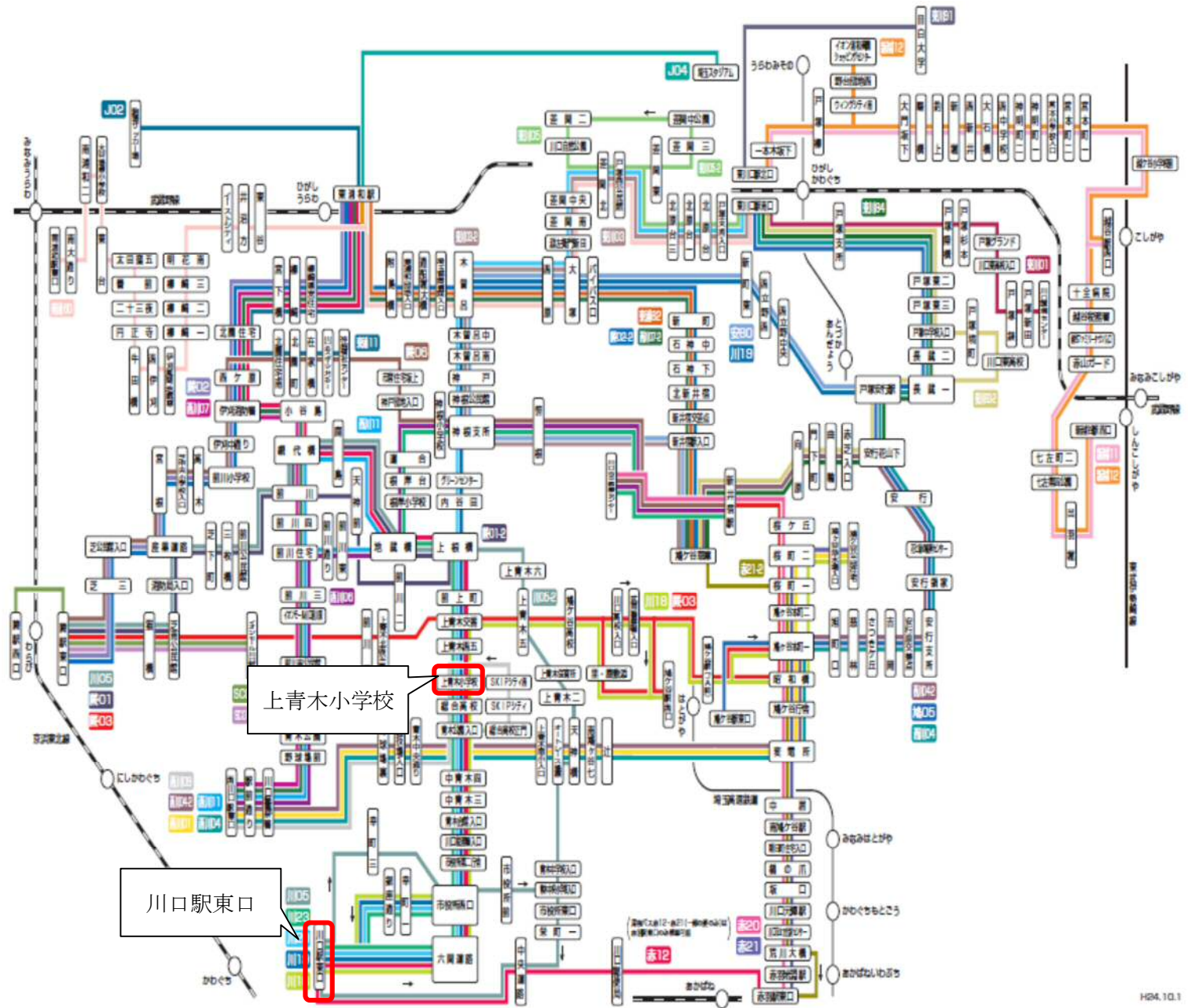
鳩ヶ谷営業所 運行系統図

TEL 048(281)4192

赤12	磯北-磯北-磯北	緑184	川口駅西口-磯北
赤20	磯北-磯北-磯北	緑191	川口駅西口-磯北
赤21	磯北-磯北-磯北	緑205	磯北-磯北-磯北
赤21-2	磯北-磯北-磯北	緑280	磯北-磯北-磯北
川105	川口駅東口-磯北	緑SC01	磯北-磯北-磯北
川105-2	川口駅東口-磯北	緑SC01-2	磯北-磯北-磯北
川118	川口駅東口-磯北	緑JO2	磯北-磯北-磯北
川119	川口駅東口-磯北	緑JO4	磯北-磯北-磯北
川120	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
川123	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
西川01	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
西川04	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
西川04-2	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
西川06	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
西川07	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
西川07-2	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
西川08	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
西川11	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
緑01	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
緑01-2	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
緑02	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
緑02-2	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
緑03	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
緑06	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清82	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清83	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清84	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清85	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清86	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清87	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清88	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清89	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清90	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清91	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清92	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清93	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清94	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清95	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清96	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清97	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清98	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清99	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北
東清100	川口駅東口-磯北	緑新12	磯北-磯北-磯北

深夜急行バス

池袋駅西口
王子駅
王子5(王子5分)
王子4(王子4分)
赤羽駅東口
川口駅東口
西川口駅東口
磯北駅東口
南浦和駅東口
東浦和駅



上青木小学校

川口駅東口

(3) 主要道路からのアクセス

周辺主要道路の整備状況・計画は以下の通り。

○本庁舎・市民会館周辺の主な都市計画道路

都市計画道路名	整備状況	現況幅員	計画幅員	備 考
川口王子線	概成済	15m	15m	
仁志町領家町線	概成済	11m	11m	
中央通り線	概成済	11m	11m	県道根岸本町線
本町青木線	概成済	11m	11m	

※概成済…一部、計画幅員に満たない区間があるが、路線として都市計画道路と同程度の機能を果たし得る道路

○SKIPシティ・C街区周辺の主な都市計画道路

都市計画道路名	整備状況	現況幅員	計画幅員	備 考
上青木東西線	整備中	8m	21.5m	H28 年度整備予定
里上青木線	整備中	8m	16m	橋含む H28 年度整備予定
中央通り線	概成済	11m	11m	県道根岸本町線
青木神戸線	未整備	11m	27m	整備時期未定
蕨鳩ヶ谷線	整備済	15m	15m	県道蕨桜町線

(参考) 本庁舎・市民会館周辺の主な都市計画道路 (全体図)



※青木 5 丁目交差点を堺に「青木神戸線」、「本町青木線」と名称が変わる。

(参考) SKIPシティ・C街区周辺の主な都市計画道路（詳細図）



(参考) 本庁舎・市民会館周辺の主な都市計画道路（詳細図）



※里上青木線については、SKIPシティ敷地に接する道路ではないが、上青木東西線と区別をするため、図上に掲載した。

(4) 交通渋滞の可能性 (参考)

本庁舎および SKIP シティを取り巻く主要道路について、交通渋滞の可能性を検討した。

(参考)両拠点に近接する主要道路の混雑状況について

路線名		県道 332 号線 (根岸本町線)	国道 122 号線
本庁舎から各主要道路 までの直線距離		約 230m	約 860m
SKIP シティから各主 要道路までの直線距離		約 280m	約 1,350m
渋滞に 関する 情報	区 間	「本町 3 丁目」交差点～ 「上青木交番」交差点	「本町ロータリー」交差点～「青少年 会館入口」交差点
	区 間 延 長 (km)	約 3.8km	約 6.0km
	昼間 12 時間 自動車類交通 量 (上下合計)	8,479 (台)	26,672 (台)
	平均旅行速度 (混雑時)	約 18km/h	約 21km/h

出所：H22 交通センサス

※渋滞の定義は交通管理者や道路管理者によって異なるが、例えば警視庁が定めている基準には以下の様なものがある。

一般道路における渋滞の定義・・・自動車走行速度が 20km/h

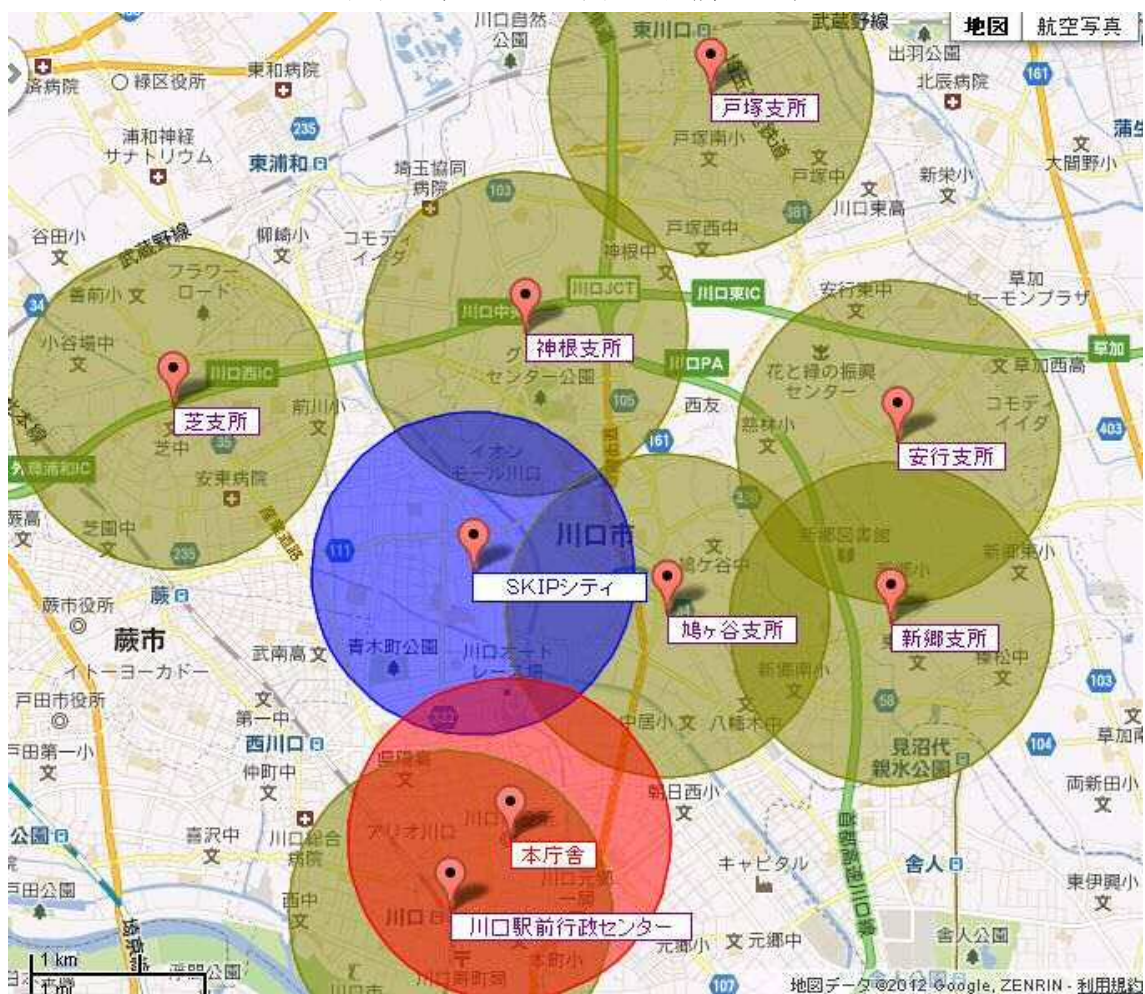
以上の考え方に基つくと、県道 322 号線及び国道 122 号線は共に混雑時に渋滞する可能性が高い。

(5) 他の窓口機能との重複度合い

(5) -1 窓口機能の重複度合い

川口市における他の市関連施設（ただし、窓口機能に限る）との重複度合いを整理した。以下の図では、本庁舎敷地及び SKIP シティ C 街区敷地、各支所所在地をそれぞれ中心とし、半径 1.5km の同心円（おおむね徒歩圏内）によって窓口機能のカバー範囲を図示したものである。（本庁舎が赤丸、SKIP シティ C 街区が青丸）

図表 半径 1.5km 圏内の支所窓口等



出所：川口市 HP、「川口市民便利帳」

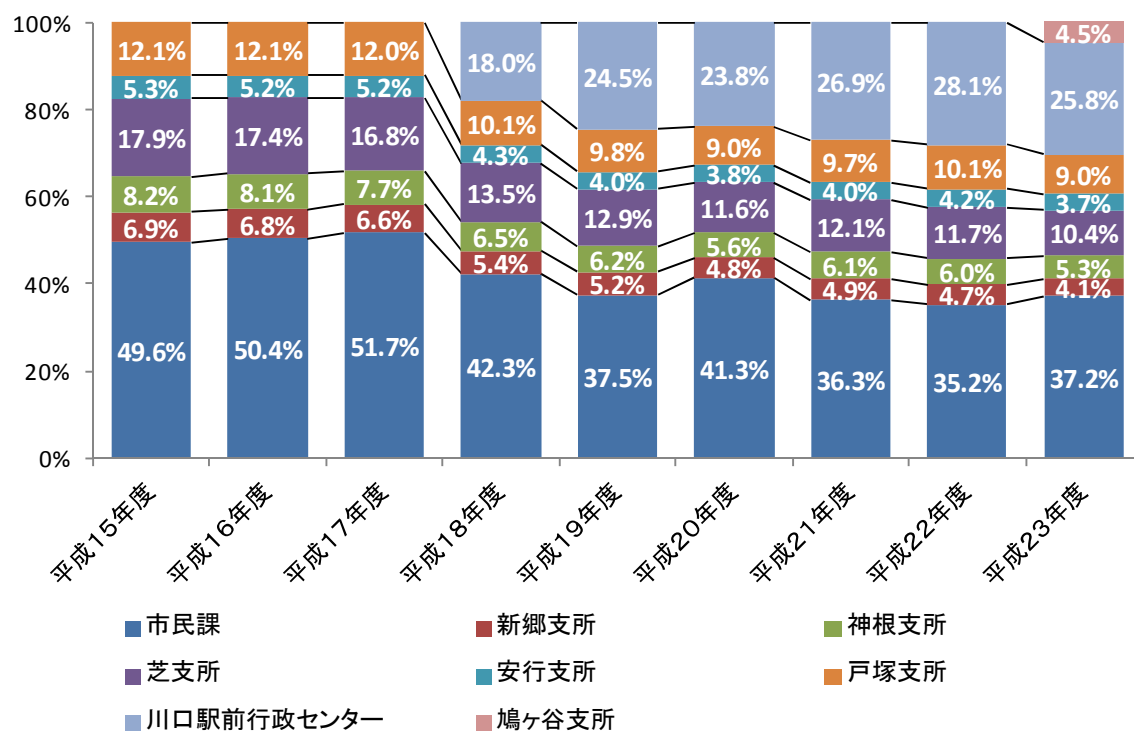
以上より、窓口機能という点においては、SKIP シティが本庁舎に比して重複が少ないということが分かる。

なお、本庁舎及び各支所の証明書等の発行件数は以下のように推移している。平成23年度においては、本庁舎の割合が最も大きく、約37%となっている。また、川口駅前行政センターも平成23年度の割合が約26%であり、本庁舎に次いで大きな割合となっている。両者を合計すると約63%と全体の半数以上を占めおり、各種行政サービスにおいては、主要駅である川口駅周辺での利用率が高いということが窺える。

図表 証明書等の発行件数（実数）

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
本庁舎（市民課）	252,899	257,935	264,504	253,520	221,607	253,436	202,409	193,105	229,513
新郷支所	34,953	34,894	33,627	32,517	30,552	29,347	27,274	25,499	25,031
神根支所	42,002	41,700	39,469	39,188	36,385	34,615	34,148	32,890	32,830
芝支所	91,047	89,250	86,036	81,048	76,384	71,303	67,400	64,402	64,414
安行支所	26,841	26,455	26,422	25,584	23,945	23,157	22,543	22,925	22,560
戸塚支所	61,814	61,821	61,423	60,464	57,795	55,267	53,967	55,121	55,749
川口駅前行政センター				107,709	144,567	145,850	150,272	154,176	159,128
鳩ヶ谷支所									28,074
合 計	509,556	512,055	511,481	600,030	591,235	612,975	558,013	548,118	617,299

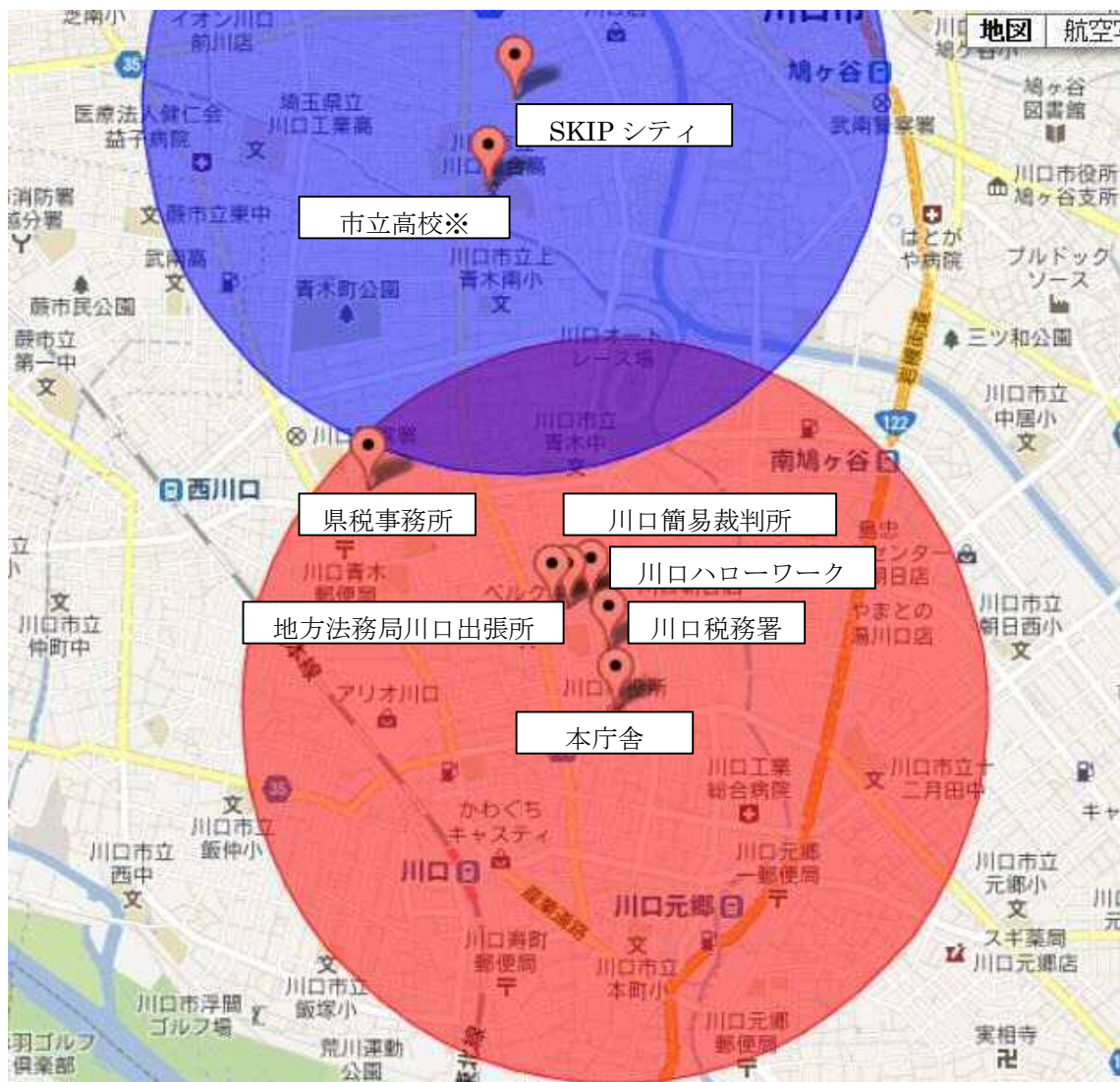
図表 証明書等の発行件数（比率）の推移



(5) -2 他の行政施設等との関係

次に、本庁舎及び SKIP シティと他の行政施設等（法務局、県税事務所、税務署、簡易裁判所、ハローワーク）との地理的關係を以下の図に示した。

図表 本庁舎及び SKIP シティと他の行政施設との地理的關係



※市立高3校（川口総合高校、市立川口高校、県陽高校）が統合し2018年春に開校予定

以上より、他の行政施設等は SKIP シティより本庁舎寄りに立地しているということが分かる。

（６）人口集積性

国勢調査をもとに半径 1.5km の同心円内（おおむね徒歩圏内）の人口集積状況を概算で試算した。（※）

	本庁舎敷地及び市民会館敷地周辺	SKIP シティ C 街区敷地周辺
人口	122,186 人	71,418 人
世帯数	54,399 世帯	29,903 世帯

本庁舎敷地及び市民会館敷地周辺の方が人口は約 5 万人多く、世帯数も約 2 万 4 千世帯多く、人口集積性が高い。

※平成 22 年国勢調査の 500m ごとのデータを参照した。ただし、各候補地からの同心円と、上記統計上のデータの区分は一致しないため、概算での推計となる。

（７）位置の偏在性

合併前の人口重心は、平成 22 年国勢調査により明らかになっている。旧・川口市においては、東経 139 度 43 分 33.63 秒（10 進法では 139.7260083）、北緯 35 度 49 分 47.17 秒（同様に 35.82976944）、旧・鳩ヶ谷市においては東経 139 度 44 分 15.55 秒（139.7376528）、北緯 35 度 49 分 39.02 秒（35.82750556）である。（以上、総務省統計局資料に基づく）

このデータによれば、旧・川口市の人口重心は上青木 2 丁目 23（上青木氷川神社の北部）であり、旧・鳩ヶ谷市の人口重心は坂下町 4 丁目 6（鳩ヶ谷駅南の鳩ヶ谷歩道橋の南東方面）である。

しかし、合併後の川口市の人口重心は最新の国勢調査からはわからないため、改めて算出することが必要となる。

算出にあたっては、総務省の人口重心の算出方法を活用する。

図表 市町村の人口重心の算出方法

$$x = \frac{\sum w_i x_i \cos(y_i)}{\sum w_i \cos(y_i)} \quad y = \frac{\sum w_i y_i}{\sum w_i}$$

x, y : 人口重心の経度, 緯度
 x_i, y_i : 基本単位区ごとの面積の中心点の経度, 緯度 (°)
 w_i : 基本単位区ごとの人口

（出所）総務省統計局「我が国の人口重心」

総務省は、市区町村の人口重心を基本単位区別の人口や面積の中心点の緯度・経度から

計算している。ここでは、基本単位区を町丁目と定義することで、人口重心算出に必要な経度・緯度データ及び人口データを活用できるようにする。

町丁目別の経度・緯度データは、総務省統計局が提供しているため、こちらを活用した。また、町丁目別の人口データは、川口市が提供している本年 10 月時点の住民基本台帳の数値を使った。

図表 算出の経過の一部（旧鳩ヶ谷市地域に属する町丁目別データの算出）

町名	経度	緯度	住基人口(10月)	経度算出(分子)	経度算出(分母)	緯度算出(分子)	緯度算出(分母)
坂下町1丁目	139.73682	35.83185	780	-31841.908	-227.8705623	27948.843	780
坂下町2丁目	139.74420	35.82973	2032	-83532.180	-597.7506025	72806.01136	2032
坂下町3丁目	139.74310	35.82789	2407	-99538.388	-712.2955455	86237.73123	2407
坂下町4丁目	139.73851	35.82726	1003	-41560.748	-297.4180003	35934.74178	1003
桜町1丁目	139.73645	35.83657	1663	-66838.656	-478.3194087	59596.21591	1663
桜町2丁目	139.73811	35.83984	995	-39555.473	-283.0686109	35660.6408	995
桜町3丁目	139.74261	35.84113	2153	-85221.493	-609.8461512	77165.95289	2153
桜町4丁目	139.74413	35.84023	1083	-42999.113	-307.6988842	38814.96909	1083
桜町5丁目	139.74217	35.83862	1068	-42633.289	-305.0853523	38275.64616	1068
桜町6丁目	139.74225	35.83697	1308	-52502.787	-375.7116186	46874.75676	1308
三ツ和1丁目	139.74095	35.82553	1171	-48793.204	-349.1689698	41951.69563	1171
三ツ和2丁目	139.74352	35.82389	1263	-52903.841	-378.5781322	45245.57307	1263
三ツ和3丁目	139.74503	35.82195	637	-26847.293	-192.1162624	22818.58215	637
大字前田	139.72978	35.81503	221	-9516.867	-68.10908208	7915.12163	221
大字辻	139.73209	35.82607	5182	-215536.524	-1542.49839	185650.6947	5182
大字里	139.73001	35.83451	10404	-421001.584	-3012.964674	372822.242	10404
南鳩ヶ谷1丁目	139.74060	35.82037	1998	-84626.443	-605.5966775	71569.09926	1998
南鳩ヶ谷2丁目	139.74469	35.81651	2133	-91442.861	-654.3566038	76396.61583	2133
南鳩ヶ谷3丁目	139.74037	35.81599	2277	-97770.668	-699.6594296	81553.00923	2277
南鳩ヶ谷4丁目	139.73811	35.81436	1786	-77073.708	-551.558255	63964.44696	1786
南鳩ヶ谷5丁目	139.73326	35.81570	2290	-98412.167	-704.2859141	82017.953	2290
南鳩ヶ谷6丁目	139.73355	35.81915	2576	-109520.866	-783.7836092	92270.1304	2576
南鳩ヶ谷7丁目	139.73352	35.82280	3339	-140337.259	-1004.320644	119612.3292	3339
南鳩ヶ谷8丁目	139.72943	35.81925	648	-27540.842	-197.1012289	23210.874	648
八幡木1丁目	139.74724	35.81944	696	-29567.070	-211.5753419	24930.33024	696
八幡木2丁目	139.74905	35.81525	1223	-52637.231	-376.6553727	43802.05075	1223
八幡木3丁目	139.75157	35.81193	1038	-45133.691	-322.956591	37172.78334	1038
鳩ヶ谷本町1丁目	139.73816	35.83358	1645	-66773.985	-477.8507554	58946.2391	1645
鳩ヶ谷本町2丁目	139.74216	35.83510	1229	-49639.254	-355.220316	44041.3379	1229
鳩ヶ谷本町3丁目	139.74309	35.83328	2544	-103371.964	-739.7286286	91159.86432	2544
鳩ヶ谷本町4丁目	139.74533	35.83186	1888	-77075.916	-551.545561	67650.55168	1888
鳩ヶ谷緑町1丁目	139.72881	35.81690	500	-21406.899	-153.203187	17908.45	500
鳩ヶ谷緑町2丁目	139.72781	35.81949	1436	-60985.283	-436.4577338	51436.78764	1436
			合計	-2594139.454	-18564.356	2243362.271	62616.000
				緯度	139.7376478	経度	35.82730087

こうして新・川口市の全町丁目別の緯度経度データ及び人口データをもとに、新たに合併後の人口重心を算出したところ、東経 139 度 43 分 37.33 秒(10 進法では 139.7270365)、北緯 35 度 49 分 46.80 秒(同様に 35.82966751)と求められた。合併後の人口重心は、旧・川口市の人口重心から東に移動し、新芝川の上に位置づく。

図表 合併後の人口重心



川口市は面積 61.97 平方キロメートル、距離は東西 10.2km、南北 11.8km であり、現在の市役所の位置は経度 139 度 43 分 27 秒、緯度 35 度 48 分 28 秒である。そして、東端、西端、北端、南端のそれぞれの緯度経度は下記の通りとなる。

図表 川口市の位置（東端、西端、北端、南端）

	経度	緯度
東端	139 度 47 分 17 秒	35 度 49 分 30 秒
西端	139 度 40 分 30 秒	35 度 51 分 03 秒
北端	139 度 44 分 17 秒	35 度 46 分 49 秒
南端	139 度 44 分 29 秒	35 度 53 分 14 秒

(出所) 川口市

東端、西端、北端、南端のそれぞれの緯度経度から、川口市の地理的中心点を求めると、経度 139 度 43 分 53 秒、緯度 35 度 50 分 01 秒と算出される。この場所は、川口市里 948-3 付近である。

合併後の人口重心からそれぞれの新庁舎候補地からの距離を計測したところ、直線距離で人口重心から現在の本庁舎敷地への距離が約 2.9km である一方、SKIP シティ C 街区敷地への距離はおおよそ 1.1km であった。

なお、先ほど分析した人口重心点からの距離については、人口重心点から本庁舎敷地が約 2.4km であり、SKIP シティ C 街区が約 0.6km であった。

図表 地理的中心点及び人口重心点からの距離



2) 防災拠点性

●まとめ

以下の表は、本資料中の各種指標から、防災拠点としての機能性を評価するために必要と思われる情報を整理したものである。

また、「地盤の強さ」評価の前提である地震は、平成 17 年に内閣府中央防災会議が発表した「東京湾北部地震」(M7.3) である。

「浸水リスク」評価の前提である災害は、国土交通省荒川上流河川事務所、荒川下流河川事務所が、200 年に 1 回程度発生する規模の大雨であり、評価に用いているハザードマップは荒川の堤防が破堤した想定で作成、公表した「荒川 水系荒川 浸水想定区域図」となっている。

	本庁舎敷地	SKIP シティ C 街区
地盤の強さ	・ 震度 6 強エリアに該当 ・ 建物被害危険度が 6.0%～7.9%	・ 震度 6 弱エリアに該当 ・ 建物被害危険度が 2.0%～3.9%
浸水リスク	「浸水の深さが最大で 2.0m から 5.0m 未満の区域」に属している	「浸水の深さが最大で 1.0m から 2.0m 未満の区域」に属している
職員参集の円滑さ※1	690 人	835 人
半径 1.5km 以内の避難所の数※2	11 箇所	13 箇所

※1 仮に、徒歩の平均速度を 6km/時とした場合、居住地から概ね 1 時間以内に参集出来る川口市職員数

※2 避難所とは、地震災害による家屋の倒壊や焼失などで被害を受けた市民、また被害を受けるおそれのある市民を一時収容・保護するために開設し、宿泊、給食などの生活機能を確保するための施設。(基本的には小学校等の屋内施設を指し、広域避難所等は含まない。)

(1) 地盤の強さ

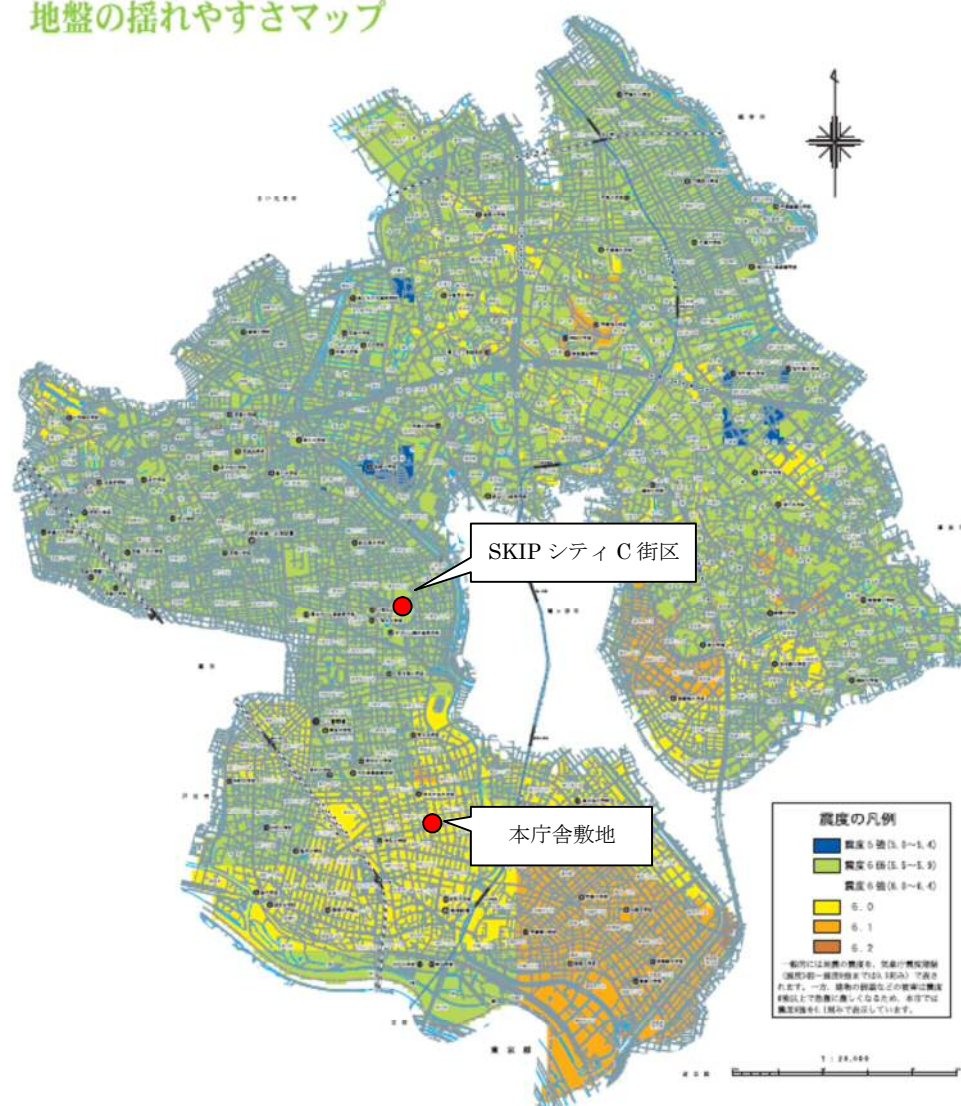
「地盤の強さ」評価の前提である地震は、平成 17 年に内閣府中央防災会議が発表した「東京湾北部地震」(M7.3) である。

地盤の観点からは、以下のように整理できる。

本庁舎敷地	SKIP シティ C 街区
- 震度 6 強エリアに該当 - 建物被害危険度が 6.0%～7.9%	- 震度 6 弱エリアに該当 - 建物被害危険度が 2.0%～3.9%

図 川口市 地震の揺れやすさマップ

地盤の揺れやすさマップ



※鳩ヶ谷地区は除く

出所：川口市地震ハザードマップ「地震の揺れやすさマップ」

<http://www.city.kawaguchi.lg.jp/ctg/08200020/08200020.html>

図 地域の建物被害状況（本庁舎敷地周辺）

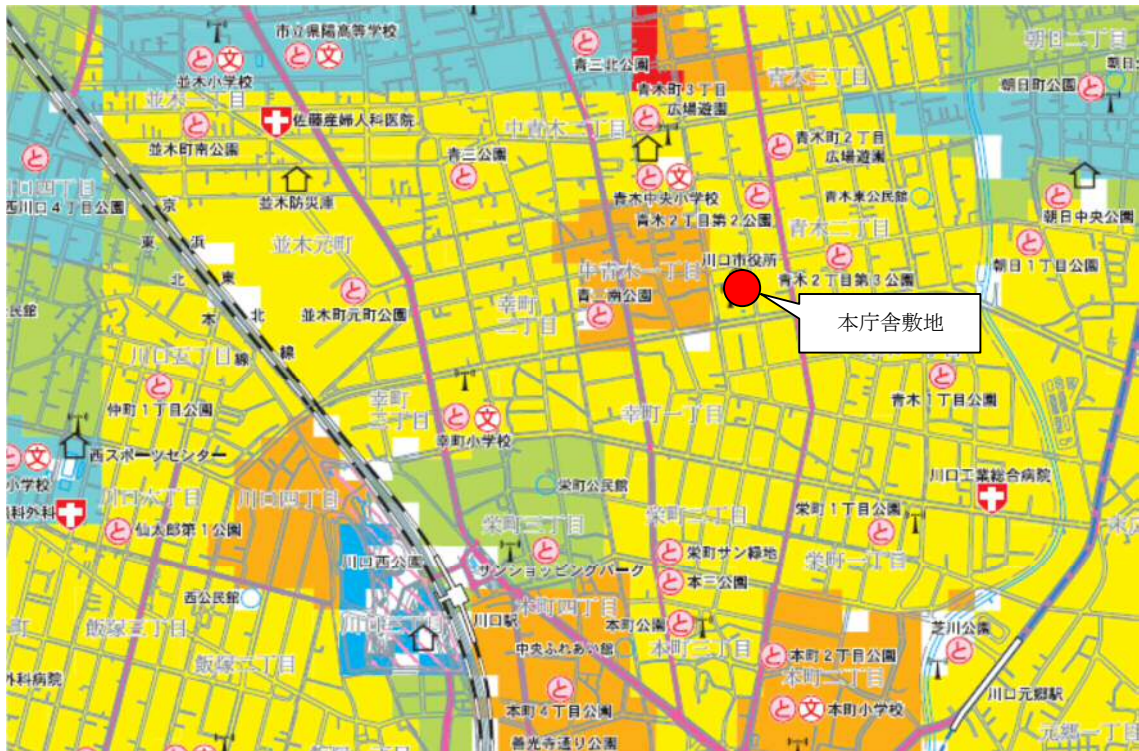
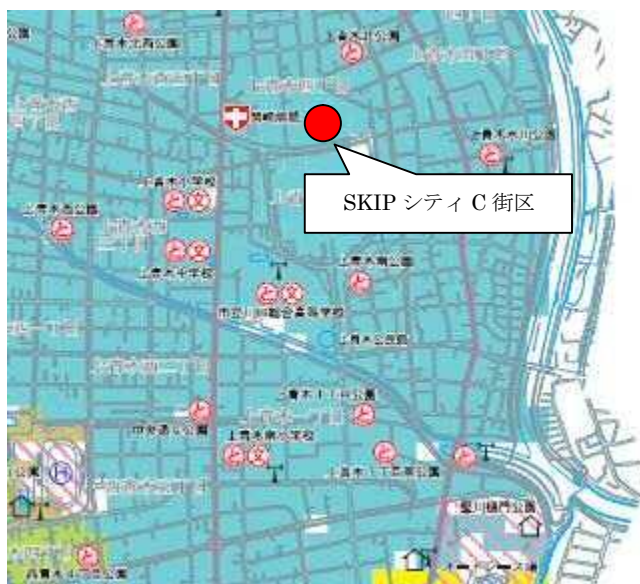


図 地域の建物被害状況（SKIP シティ C 街区周辺）



出所：川口市地震ハザードマップ「地域の危険度マップ」

<http://www.city.kawaguchi.lg.jp/kbn/08200019/08200019.html>

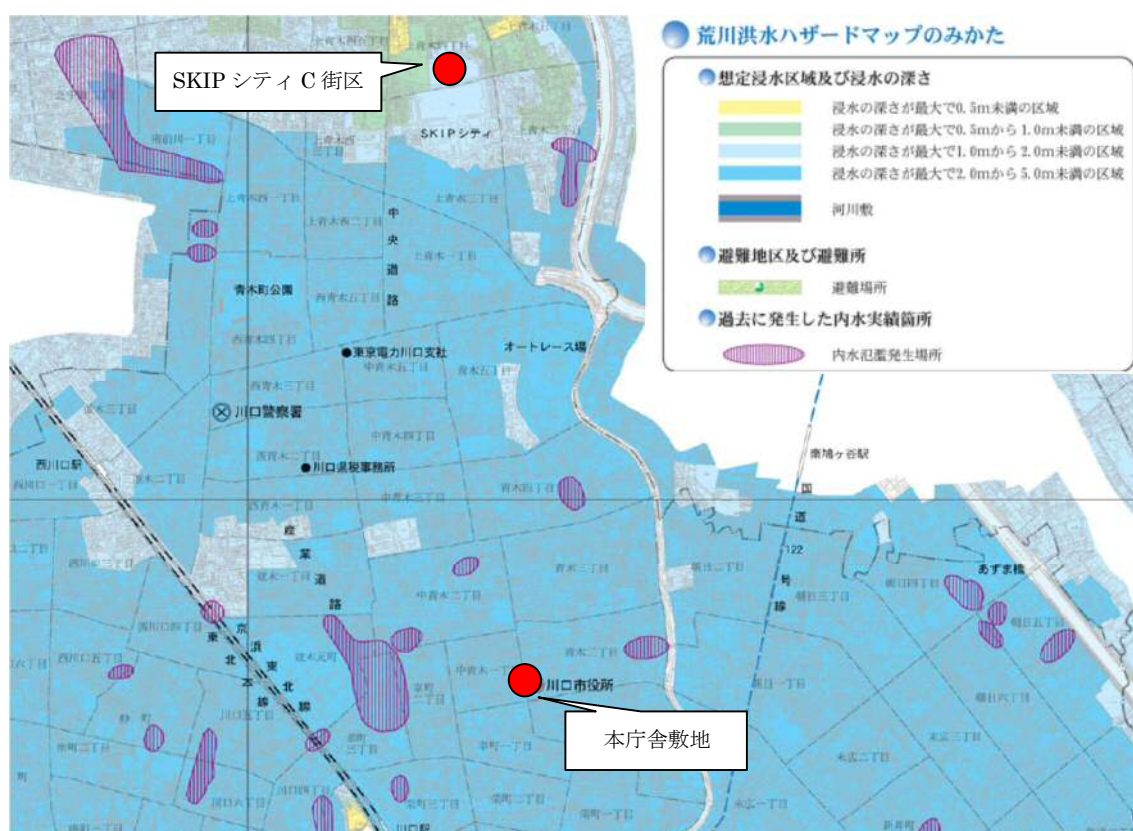
(2) 浸水リスク

「浸水リスク」評価の前提である災害は、国土交通省荒川上流河川事務所、荒川下流河川事務所が、200年に1回程度発生する規模の大雨であり、評価に用いているハザードマップは荒川の堤防が破堤した想定で作成、公表した「荒川 水系荒川 浸水想定区域図」である。

本庁舎敷地予備 SKIP シティ C 街区の浸水リスクは以下の図に示す通りである。

	本庁舎敷地	SKIP シティ C 街区
浸水リスク	・ 「浸水の深さが最大で 2.0m から 5.0m 未満の区域」に属している。	・ 「浸水の深さが最大で 1.0m から 2.0m 未満の区域」に属している。

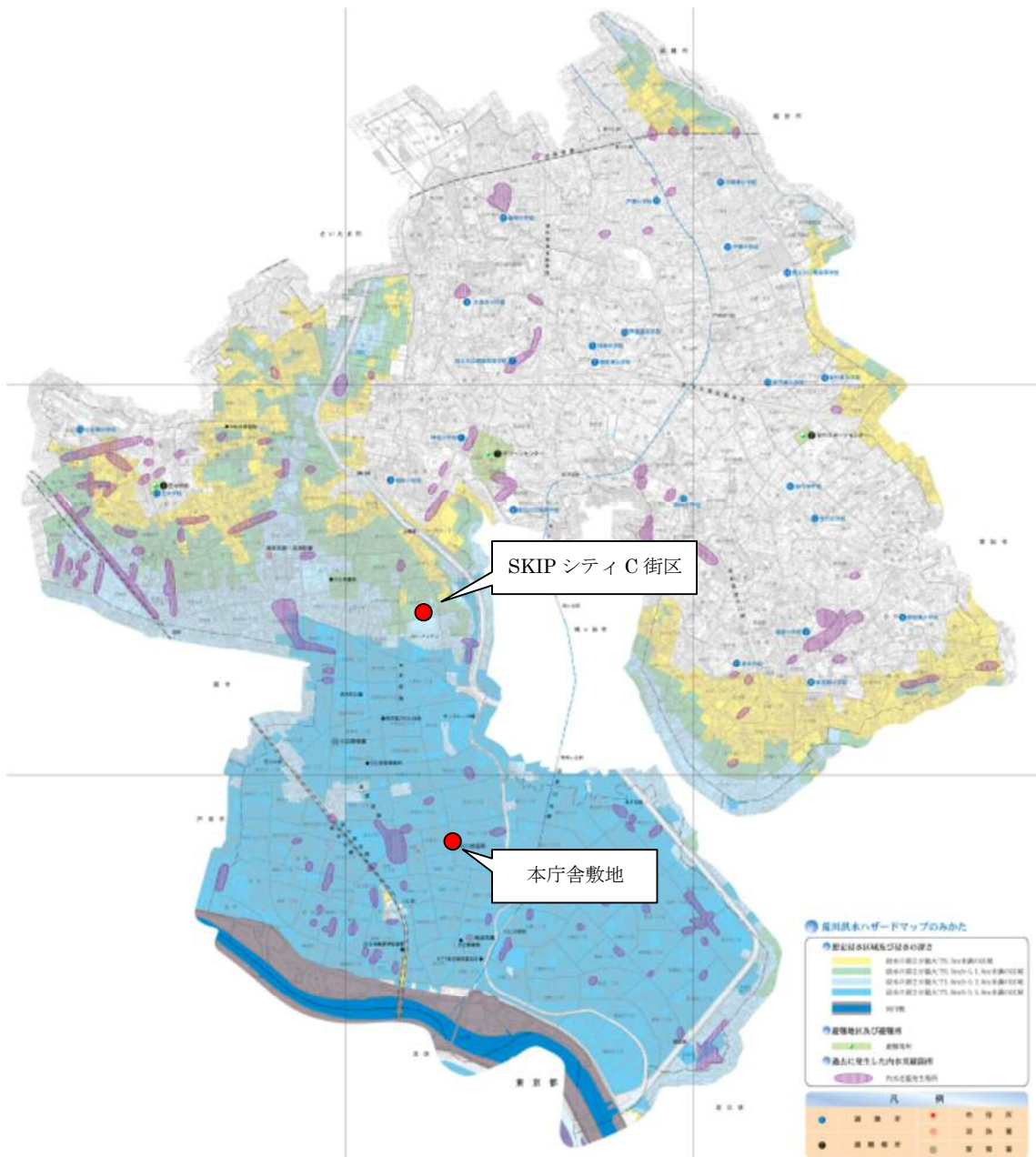
図 2 拠点の浸水リスクについて



出所：荒川洪水ハザードマップ

http://www.city.kawaguchi.lg.jp/arakawa/map_index.html

(参考) 川口市全体の状況



※ただし、鳩ヶ谷市は除く

出所：荒川洪水ハザードマップ

http://www.city.kawaguchi.lg.jp/arakawa/map_index.html

（３）職員参集の円滑さ

市内に居住する川口市職員の居住データ（ただし、町丁目毎の人数のみ）を活用し、参集のしやすさを比較した。

仮に、徒歩の平均速度を 6km/時とした場合、居住地から概ね 1 時間以内に参集出来る本庁舎職員数は、本庁舎の場合は 690 人、SKIP シティの場合は 835 人となった。

図表 本庁舎における参集のしやすさ

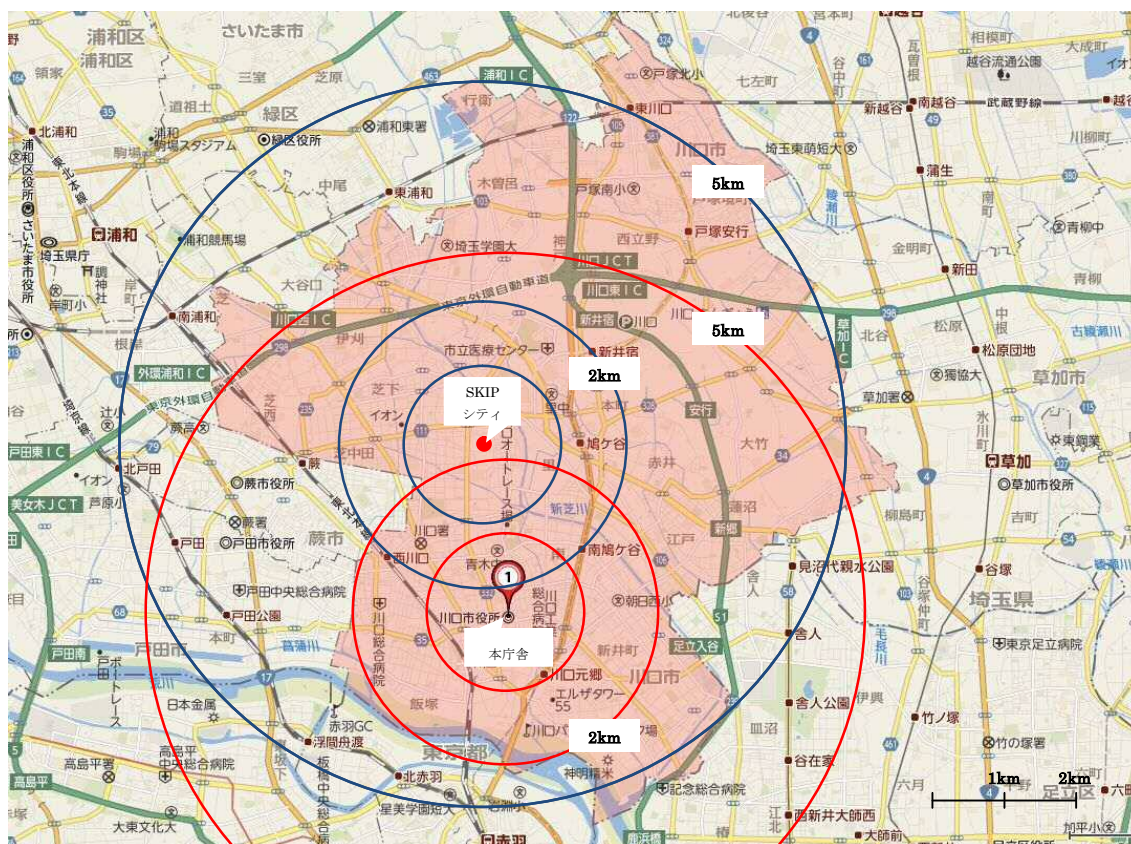
本庁舎を中心とした場合の 半径距離（km）	半径距離以内に居住している 川口市職員数（人）	川口市職員全体に占める比率（％）
1km 以内	127	14.2％
3km 以内	454	50.7％
5km 以内	690	77.0％
5km 超	896	100.0％
合計	896	100.0％

図表 SKIP シティにおける参集のしやすさ

SKIP シティを中心とした場合の 半径距離（km）	半径距離以内に居住している 川口市職員数（人）	川口市職員全体に占める比率（％）
1km 以内	85	9.5％
3km 以内	505	56.4％
5km 以内	835	93.2％
5km 超	896	100.0％
合計	896	100.0％

出所：川口市提供資料より作成

図 川口市全図と本庁舎及び SKIP シティ各拠点からの半径 5km 以内の範囲



(4) 避難所との接続性

半径 1.5km 以内の避難所の数を以下に示した。結果は以下の通り。

	本庁舎敷地	SKIP シティ C 街区
半径 1.5km 以内 の避難所の数	11 箇所	13 箇所

※避難所とは、地震災害による家屋の倒壊や焼失などで被害を受けた市民、また被害を受けるおそれのある市民を一時収容・保護するために開設し、宿泊、給食などの生活機能を確保するための施設。(基本的には小学校等の屋内施設を指し、広域避難所等は含まない。)

図表 半径 1.5km 以内の避難所の位置



※川口市 HP より

3) 周辺環境への影響

(1) 周辺住環境への影響

本庁舎敷地及び市民会館敷地に建設した場合、近接する住宅地が多くあり、騒音面や日照面で必要となる対応は比較的多い。

SKIP シティ C 街区敷地の場合、近接する住宅地は少なく、騒音面や日照面で必要となる対応は比較的少ないと考えられる。

予想される日照面での影響については、参考資料中の日影図に示した。

(2) 周辺商業・サービス業等への影響

商業統計調査をもとに半径 1.5km の同心円内（おおむね徒歩圏内）の商業集積状況を概算で試算した。（平成 19 年商業統計調査の 1km ごとのデータを参照した。ただし、各候補地からの同心円と、上記統計上のデータの区分は一致しないため、概算での推計となる。）

	本庁舎敷地及び市民会館敷地周辺	SKIP シティ C 街区敷地周辺
事業所数	838 事業所	510 事業所
年間商品販売額	1,166 億 5,072 万円	678 億 6,408 万円

仮に SKIP シティ C 街区敷地へ庁舎が移転した場合、川口駅周辺から現在の庁舎周辺の商店等への影響が懸念される。

ただし、上記の商業統計のデータからは、庁舎立地が寄与している販売額がどの程度かは判明しないため、庁舎立地による地元商業等への貢献の程度については、別途調査する必要がある。

また、商業統計には含まれていないが、仮に SKIP シティ C 街区敷地へ庁舎が移転した場合、現在本庁舎付近に立地しているサービス業（例えば、駐車場業や行政書士・司法書士等）にも、影響が及ぶ可能性がある。

4) まちづくり等の発展可能性

まちづくり等の発展可能性では、各候補地において、新庁舎の建設が将来のまちづくりにどのような影響を与えるかについて扱う。第4次川口市総合計画（基本計画）においては、「災害時の防災拠点と市民への情報提供などの役割を担う施設として、充実した機能を有する市庁舎の整備が求められています。」と定められている。

庁舎建設とまちづくり等の発展可能性を総合計画より具体的に客観的資料等により判断することは困難であるため、審議会内で検討が必要と思われるが、ここでは、参考事例として、川口市におけるこれまでのまちづくりの発展に関する主なプロジェクトの内容、その経緯について整理する。

（1）まちづくりに関する主な計画

①川口市総合開発基本計画

- ・昭和 41（1966）年策定。
- ・人間性に満ちた近代的な産業文化都市の創造を理念とし、人間尊重と福祉優先の市政を打ち出し、人口 50 万人の総合都市を目指すとした。
- ・「川口市総合開発基本計画特別委員会」を組織し検討。
- ・次の点を盛り込んだ。
 - 地下鉄の延伸と高層で人口密度の低い住宅地群並びに緑地との共存
 - 東京外郭環境高速道路、東北縦貫道の建設と流通
 - 工業団地との共存
 - 武蔵野東西線の建設と南浦和周辺の一部交通ターミナル化の可能性
 - 芝川、荒川の運河化と川口東部の土地利用の高度化
 - 既成市街地での再開発による新しい核の設定

②川口駅周辺市街地整備構想

- ・昭和 58（1983）年策定。
- ・昭和 45（1970）年より調査、検討されてきた川口駅東口の再開発計画や、昭和 51（1976）年より検討されてきた公害資源研究所の跡地利用を含めた西口周辺の都市整備計画などを総合的に踏襲することによって、川口駅東西地区を一体的に整備し、川口市の表玄関としての街並み、“川口市の顔づくり”をつくる計画。
- ・「川口駅東西地区周辺整備計画調査委員会」や地元有識者で構成する「川口駅東西地区街づくり懇談会」の参画のもと検討。
- ・次の点を盛り込んだ。
 - 東口：駅前商業地の再開発を進め、一層の商業集積を促進
駅前交通混雑を改善し、安全快適な歩行空間を整備

- 西口：公害資源研究所跡地を中心として、駅前広場、公園及び各種文化施設が複合された公共公益施設を整備。不燃化建物による街づくりを促進
- 東西口：歩行者デッキやリング道路を整備

（２）まちづくりに関する主なプロジェクト

①川口駅周辺市街地再開発事業

- ・川口駅周辺市街地整備構想を受けて、東口では、駅前拠点再開発（百貨店の誘致）、民間によるマンション等の開発、ショッピングモール（銀座通り）整備などが進み、西口では、川口総合文化センター（リリア）、川口西公園の整備などが進んだ。東西を結ぶ歩行者専用道路（ペDESTリアンデッキ）も整備された。
- ・参考資料に、再開発前後の川口市の街並みの変化（写真）と主な事業の概要を添付。

②工業団地造成事業

- ・川口市の旧市街地、特に川口駅周辺は商業地域に指定されているが、店舗・工場・住宅等が入り混じり、街の景観や各種公害による商業活動・住環境への影響が問題とされてきた。
- ・鋳物・機械工業を中心とする川口市の地場産業の存続発展、中小企業の近代化・高度化を図る一環として、商業地域や住宅地域の周辺に立地している工場を工業団地へ計画的に誘導し、その跡地の有効活用を図る必要があった。
- ・昭和 42（1967）年には「川口市工業団地造成事業に基づく土地分譲に関する条例」を制定、南平工業団地及び新郷工業団地の造成及び分譲を計画実施した（南平工業団地は昭和 42（1967）～48（1973）年度、新郷工業団地は昭和 42（1967）～50（1975）年度に造成）。

③鉄道整備

- ・昭和 48（1973）年 4 月 1 日には JR（当時国鉄）武蔵野線（当時国鉄）が開通し、東川口駅が開業。
- ・東川口駅のある戸塚地域では昭和 40 年代中頃から土地区画整理事業によって計画的な市街地形成が進められ、昭和 60 年代以降、急速に人口が増加。近年では埼玉高速鉄道線（後述）が東川口駅で結節し開発が進んでいる。
- ・平成 4（1992）年に埼玉県及び沿線 3 市（旧川口、旧鳩ヶ谷、旧浦和）、帝都高速度交通営団（現東京地下鉄株式会社）、交通事業者、民間企業等による第三セクターとして、「埼玉高速鉄道株式会社」が設立された。
- ・埼玉高速鉄道線は、平成 7（1995）年より工事着手、平成 13（2001）年より開業。

- ・川口市では、埼玉高速鉄道沿線のまちづくりとして、街路事業（駅前広場整備を含む）や地下自転車駐車場等の整備を進めた。

④道路整備

- ・1980年代ごろから川口市周辺の道路環境は大きく整備された。川口市に関係の深い高速道路と主な一般道の供用開始時期は次のとおりである。

	区間	供用開始日
高速道路	首都高 (江北 JCT～川口 JCT)	S62 (1987) .9.9
	東北自動車道 (川口 JCT～浦和 IC)	S62 (1987) .9.9
	東京外環自動車道 (和光 IC～三郷 JCT)	H4 (1992) .11.27
一般道	国道 122 号 (122 号バイパス開通)	S42 (1967) .6
	県道足立川口線 (一般県道 239 号)	S57 (1982) .8.10
	国道 298 号 (和光市～草加市)	H4 (1992) .11.26

⑤SKIP シティ（さいたま新産業拠点）プロジェクト

- ・「埼玉県内中小企業の振興」と「映像関連産業を核とした次世代産業の導入・集積」を基本方針に、NHK 跡地に埼玉県、NHK、民間事業者等が整備を進めている。
- ・平成 15（2003）年 2 月には全 15 ヘクタールのうち、5 ヘクタールの A 街区が整備された。

5) 庁舎建設計画との整合性

(1) 敷地面積、今後の開発余地

本庁舎敷地及び市民会館敷地は、14,208 m²、SKIP シティ C 街区敷地は 20,290 m²であり、今後の開発余地としては、SKIP シティ C 街区敷地が比較的大きい。また、今後の庁舎建設計画によるものの、一般的には敷地面積が広いほうが災害時の収容力（一時避難の場所や物資の搬入出の余地等）も高いと考えられる。

(2) 施設の配置

本庁舎敷地及び市民会館敷地は、道路で分断される本庁舎と市民会館の 2 箇所に配置される。SKIP シティ C 街区敷地は一体的な敷地に庁舎建設が可能である。

(3) 周辺インフラ整備状況

本庁舎敷地及び市民会館敷地では、上下水道等のインフラや都市計画道路としての機能は整備済みである。

SKIP シティ C 街区敷地では、上下水道等のインフラは整備済みである。最寄り駅の鳩ヶ谷駅と SKIP シティを結ぶ橋を含めた都市計画道路の整備は、平成 28 年度の完成が予定されている。

各候補地ともに、新庁舎建設により新たなインフラ整備が必要なわけではない。

(4) 周辺住民との合意形成

本庁舎敷地及び市民会館敷地に建設する場合、騒音面、日照面等についての対応と周辺住民との調整等が必要となる。また、容積率緩和のため、都市計画決定変更の手続きが必要となる見込みである。

SKIP シティ C 街区敷地の場合、現庁舎周辺の商業地等への影響への対応、現庁舎の跡地活用の検討、上青木スポーツ広場の利用者との調整等が必要となる。

(5) 工事の施工にあたっての留意事項

本庁舎敷地及び市民会館敷地に建設する場合、工期により難易度が大きく異なる。ケース 1（Ⅲ期工事）またはケース 1 のア（Ⅱ期工事）では、庁舎で職員が勤務しながら施工することへの対応が必要である。

SKIP シティ C 街区敷地の場合、現庁舎での業務とは関係なく工事を進めることができる。

(6) 完成までの事業期間

第 1 回審議会資料における仮定を置いた場合、本庁舎敷地及び市民会館敷地に建設する場合、7.5 年（Ⅰ期工事）、10 年（Ⅱ期工事）、13 年（Ⅲ期工事）の見込みである。

SKIP シティ C 街区敷地の場合、7 年の見込みである。

6) コスト

(1) 概算事業費

第1回審議会資料における仮定(400,000 円/㎡、地下駐車場は 500,000 円/㎡)を置いた場合、本庁舎敷地及び市民会館敷地に建設する場合、ケース 1 (Ⅲ期工事) では 236~280 億円、ケース 1 のア (Ⅱ期工事) では 238 億円、ケース 1 のイ (Ⅰ期工事) では 260~262 億円と試算される。

SKIP シティ C 街区敷地の場合、245 億円と試算される。

(2) 解体撤去工事コスト

解体工事費については、いずれの候補地においても 12 億円と試算される。ただし、ケース 1 (Ⅲ期工事) では工事の難易度が高いため、12~14 億円と試算される。

3. 将来の人口を参考に算出した市庁舎に求められる規模

人口が同規模の都市を参考に算出する方法（第1回川口市庁舎建設審議会資料に掲載）では、川口市と人口が同規模である市川市、船橋市、松戸市等の14の自治体の例を参考に、人口1人あたり0.07 m²として算出をしている。

平成22年の川口市の人口（旧川口市と鳩ヶ谷市の人口を合わせたもの）が579,096人であったことから、

$$0.07 \text{ m}^2 \times 579,096 \text{ 人（平成 22 年）} = 40,537 \text{ m}^2$$

と算出された。

合併基本計画（平成22年12月）によれば、平成37年（2025年）の川口市の人口は561,756人である。この人口をもとに求められる庁舎の規模を算出すると、

$$0.07 \text{ m}^2 \times 561,756 \text{ 人（平成 37 年）} = 39,323 \text{ m}^2$$

となり、概ね40,000 m²となる。

4. 庁舎の移転事例

近隣地域ないし近年の市（区）庁舎移転事例として下記の事例が挙げられる。

名称	移転時期	移転先	工期	工事費 (実費)	延床面積
所沢市	1987 年	駅周辺（半径 1km 圏内）の移転 移転前の庁舎から約 800m の直線距離	1982 年国から用地取得、1985 年 3 月 着工、1986 年竣工	82 億円	31,237 m ²
目黒区	2003 年	最寄り駅（学芸大学）から徒歩 10 分から別の駅 （中目黒駅）から徒歩 5 分の場所への移転 移転前の庁舎から約 1km の直線距離	千代田生命本社ビル（1966 年竣工） を購入 2002 年改築着工、2003 年竣工	226 億円 （建物購 入費及び 改築費）	46,814 m ²
大田区	1998 年	駅からバス利用（大森駅からバス 7 分）の地点 から最寄り駅（蒲田駅）徒歩 1 分の場所へ移転 移転前の庁舎から約 2km の直線距離	桃源社ビル（1992 年竣工）を購入 1997 年改築着工、1998 年竣工	206 億円 （建物購 入費及び 改築費）	41,452 m ²
足立区	1996 年	北千住駅周辺から区の中心部への移転 約 3.2km の直線距離	1992 年着工、1996 年竣工	477 億円	61,968 m ²
立川市	2010 年	駅周辺から基地跡地（周辺は官公庁街）への移転 移転前の庁舎から約 2.4km の直線距離	2008 年着工、2010 年竣工	83 億円	25,982 m ²
青梅市	2010 年	隣接地への移転	2008 年着工、2010 年竣工	84 億円	22,097 m ²

名称	移転時期	移転先	工期	工事費 (実費)	延床面積
町田市	2012 年	駅周辺（半径 500m 圏内の移転） 移転前の庁舎から約 500m の直線距離	1999 年に用地取得、2009 年 11 月 着工、2012 年竣工	115 億円	41,510 m ²
長岡市	2012 年	官庁街から長岡駅と直結（徒歩 3 分）した中心 市街地への移転 移転前の庁舎から約 1.5km の直線距離	2009 年 12 月着工、2012 年竣工	131 億円	35,492 m ²

出所：各自治体の公表資料及び各種新聞報道より作成

近隣地域ないし近年の市（区）庁舎移転事例における、移転による周辺商業地等への影響を次にまとめた。

名称	移転による周辺商業地等への影響
所沢市	・ 駅周辺内で、かつ移転前の庁舎から約 800m の直線距離の移転である。 ・ 関係者ヒアリング（所沢市商業観光課）によれば次のように負の影響があったとしている。 ➤ 市役所移転に伴い、飲食店は影響を受けたと思われる。しかし、商店街の衰退に関しては全体の状況から見て、移転に伴う多少の影響はあるにせよ、それがすべてとは言い難い。 ➤ 市役所跡地には、公民館・図書館・住宅棟などが入る複合施設が出来ているが、完成まで時間がかかったため、人通りは少なかった時期があり、商店会にも影響があったと思われる。しかし、現在人通りは多くなってきているが、商店会の状況にあまり変化はない。
目黒区	・ 関係者ヒアリング（当時の担当課長）の結果 ➤ 庁舎跡地を売却する際、複数の民間事業者に対して公募提案型プロポーザルを実施し、まちなみとの調和・地域への貢献・緑化・環境配慮・オープンスペースの確保などの観点に価格を加味し、業者を選定した。 ➤ 庁舎があった頃と比較すると、トータルの人通りはあまり変わっていないと思うが、客層は不特定来場者か

名称	移転による周辺商業地等への影響
目黒区 (続き)	ら特定の住人に変わった。 ➤ 全体的な雰囲気は大きく変わっていない。 ➤ 地域活性化のため、1階、地下1階に、「中央町さくらプラザ」として、中央町社会教育館と五本木住区センターを配置している。
大田区	・ 関係者ヒアリング（現地の区役所隣接商店会）によれば次のように負の影響があったとしている。 ➤ 庁舎が移転し、文化施設が出来たことで客数は減ったと感じている。 ➤ 庁舎のあったころは職員や区役所に営業に来る人がお金を落として行ったが、現在の施設利用者はほとんどお金を落とさない。 ➤ 加盟店が当初 35 店→現在は 28 店になった。 ➤ バスの本数も減り、活気がなくなった。 ➤ 庁舎の移転には反対していたので、跡地施設への要望は特に行わなかった。 ➤ 庁舎の移転は、周辺の商業者にとっては重要な問題。跡地利用には充分配慮してほしい。 ・ また、移転（1999 年）の後、2002 年から 2007 年にかけて周辺地区の小売業年間販売額が約 38%減少している（159 億 7,600 万円→98 億 7,500 万円）。
足立区	・ 周辺商業地等への影響に関する新聞報道はほとんどないが、移転直後の報道で、旧庁舎付近の洋食店において日中の来客が激減し、新庁舎への仕出し弁当が新たな最大の販売先となった事例が紹介されている。（1997/01/28 東京読売新聞） ・ 関係者ヒアリング（足立区政策課担当者）の結果 ➤ 北千住駅界限は西口で再開発が行われた。また、平成 17 年のつくばエクスプレスが開通した。 ➤ 足立区による大学誘致活動（下記参照）により、若者の賑わいが増加した。 -平成 18 年：旧千寿小学校跡地に東京芸術大学（音楽学部音楽環境創造科）が開学。 -平成 19 年：足立区立第二中学校跡地に東京未来大学が開学。

名称	移転による周辺商業地等への影響
足立区 (続き)	-平成 22 年：旧元宿小学校跡地に帝京科学大学（千住キャンパス）が開学。 -平成 24 年：東口の JT 社宅跡地に東京電機大学が開学予定。 ➤ 上記、複数の要因により、北千住駅周辺の商店街に活気が出てきたと考えられ、あだち産業芸術プラザによる影響がどれくらいかはわからない。
立川市	・ 庁舎移転後に客足が 3 分の 1 に減った飲食店の紹介や、移転後に 600 人以上の職員と延べ約 2 千人いた平日の来庁者が駅をまたいだ北側の新庁舎に渡ったことにより八百屋や酒屋など旧庁舎周辺の店は次々と店を閉めた点について報道があった。なお、市は旧庁舎跡地に約 5 万冊の漫画を所蔵する「まんがばーく」を整備し年間 50 万人程度の集客を期待していることも紹介されている。（2011/08/24 朝日新聞） ・ 関係者ヒアリング（立川市産業振興課長）の結果 ➤ 庁舎移転後それほど経過していないが、庁舎跡地周辺の来街者数はそれほど減少していないと思う。市文化会館が稼働しているためもあるかもしれない。 ➤ 閉店する店舗も見られるが、昨今の状況もあり、一概に庁舎移転が原因とは言いがたいのではないか。
青梅市	・ 隣接地への移転のため周辺商業地等への影響はないと考えられる。
町田市	・ 駅周辺内で、かつ移転前の庁舎から約 500m の直線距離の移転であるため影響はほとんどないと考えられる。
長岡市	・ 本ケースは官庁街・文教施設地区から駅周辺の中心市街地への移転であり、移転の目的の 1 つは閑散とした駅周辺中心市街地の活性化であった。

出所：所沢市ヒアリング、町田市「他自治体の庁舎移転事例における周辺への影響」、及び各種新聞報道より作成

県庁舎の移転事例であるが、周辺商業地等に影響があったとされる事例は次のとおり。

名称	移転による周辺商業地等への影響
茨城県 (水戸市)	・ 茨城県は 1999 年、旧庁舎から水戸市郊外の新庁舎に全面移転した。空き家になった旧庁舎は三の丸庁舎と改称し、パスポートセンター（ただし震災後に移転）、福祉相談センター、観光協会などが入居している。職員と来庁者を合わせて一日四千人以上の出入りがあった県庁の移転で、中心街の昼間人口は激減。周辺の商店や飲食店は店じまいが相次いだという報道がされている（2009/04/11 日本経済新聞）。 ・ 移転のあった 1999 年に、水戸商工会議所は県庁移転による旧県庁舎周辺商店街への影響を調査し、「約 6 割の事業所で売り上げが減少した」とまとめている。同調査は、旧庁舎周辺の 383 事業所に対して聞き取り方式で行われ、回答率は約 8 割に及んだ。「売り上げが減少した」と答えたのは飲食業が最も高く、約 9 割にのぼった。 ・ 水戸市役所の建て替えにあたって、一時はこの三の丸庁舎への移転が検討されたが、現在では市長は現在地での新築を表明している。三の丸庁舎の周辺商店街は現在地建て替え反対の集会などを開くなどして、見直しを求めている。
石川県 (金沢市)	・ 金沢市と金沢商工会議所、市商店街連盟は、2003 年 10 月に金沢中心部の 65 地点で実施した歩行者通行量調査の結果をまとめている。 ・ 代表的な繁華街、香林坊で百貨店・大和に隣接するアトリオ前は前回調査（2001 年 10 月）に比べ、平日の歩行者数が 2 割減少。前年 1 月に石川県庁が駅西へ移転した影響が鮮明になったとしている。香林坊交差点で旧県庁に最も近いアトリオ前は、平日である 10 月 10 日の通行人数が 7,941 人であり、県庁移転前の 2001 年に比べ 2,000 人以上減った。

出所：各種新聞報道より作成

その他の庁舎の建替事例は次のとおり。

	建設費		期間				構造規模等				竣工年
	工事費（税込） （設計額）	㎡単価	基本構想・ 基本計画	基本設計・ 実施設計	建設工事	合計	階数	延べ面積	構造	耐震性能	
平塚市	115億	374千円	2年	2年	Ⅱ期工事で 5年	9年	8階地下2階	30,747㎡	鉄骨鉄筋コンク リート構造	免震構造	2016年（予定）
甲府市	92億	329千円	2年	2年	2年	6年	10階地下1階	27,972㎡	鉄骨造	免震構造	2013年（予定）
町田市	142億	342千円	3年	4年	3年	10年	10階地下1階	41,510㎡	鉄骨造	耐震構造	2012年
那覇市	91億	236千円	2年	2年	3年	7年	12階地下2階	38,656㎡	鉄骨鉄筋コンク リート構造	免震構造	2012年
福島市	124億	351千円	3年	4年	Ⅱ期工事で 5年（予定）	12年	東棟：11階	35,364㎡	鉄骨鉄筋コンク リート構造	免震構造	2010年
							西棟：6階			耐震構造	未着工
岩国市	89億	366千円	1年	2年	3年	6年	7階地下1階	24,325㎡	鉄骨鉄筋コンク リート構造	免震構造	2008年

出所：川口市建築課 調べ

※町田市については移転事例にも市庁舎移転事例に掲載している。